

日本協同組合学会 Newsletter

Vol. 27 No. 3(通巻 73 号)
2016 年 8 月 5 日

～第 36 回大会案内号～

発行 日本協同組合学会 責任編集 会長 石田正昭
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11 番地 飯田橋レインボービル 5 階
一般社団法人 J C 総研 協同組合研究部内 日本協同組合学会事務局
TEL:03-6280-7254 FAX : 03-3268-8761
E-mail:kyodo-gakkai@jc-so-ken.or.jp
ホームページ: <http://www.coopstudies.com/>

日本協同組合学会 第 36 回大会のご案内

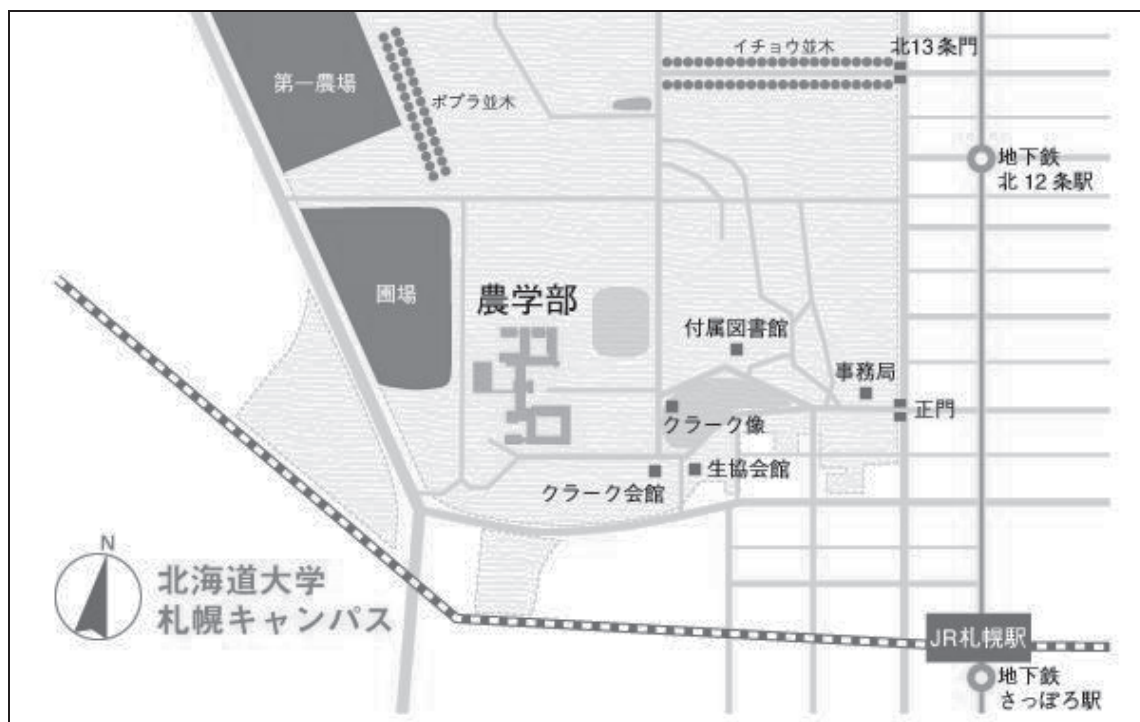
開催日: 2016 年 10 月 7 日(金)・8 日(土)・9 日(日)

会 場: 北海道大学農学部 (札幌市北区北 9 条西 9 丁目)

<最寄り駅からのアクセス>

JR 札幌駅、札幌市営地下鉄さっぽろ駅より徒歩 15 分

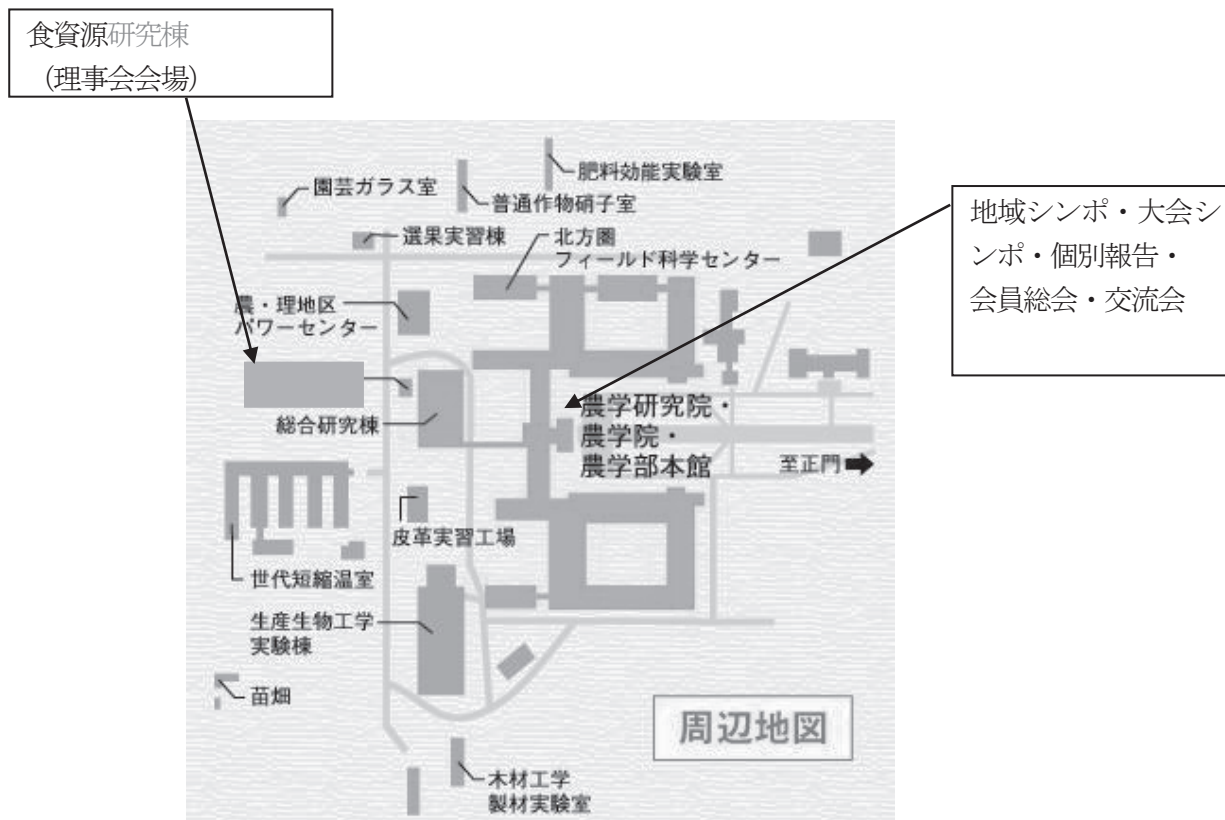
詳細 URL <http://www.agr.hokudai.ac.jp/info/access.html>



<新千歳空港から札幌駅まで>

- ・ J R 快速エアポート (約 15 分間隔で運行) 所要時間: 36 分
片道大人: 1,070 円、子ども: 530 円
- ・ バス 北海道中央バス・北都交通 所要時間: 約 70 分
片道大人: 1,000 円

<会場案内図>



<大会スケジュール>

第1日目 10月7日 金曜日

- 地域シンポジウム 13:30~16:30
- 理事会 17:00~18:30

第2日目 10月8日 土曜日

- 個別論題報告・テーマセッション 9:15~11:45
- 大会シンポジウム 12:45~16:15
- 会員総会 16:30~17:45
- 交流会 18:15~19:50

第3日目 10月9日 日曜日

- エクスカージョン 8:00~18:30 (予定)

<申込案内>

基本参加費：会員 1,500 円 非会員 2,000 円 (報告要旨集のみ希望者 1,800 円)

地域シンポのみの参加の場合、資料代のみ 500 円。

交流会参加費：一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円 (参加申込ハガキでの事前申込)

エクスカージョン：5,500 円 (昼食代 1,500 円込み、定員先着 40 名、参加申込ハガキでの事前申込)

☆同封の参加申込ハガキに必要事項を記入の上、**9月9日(金)必着**で送付して下さい。

また、学会参加者・報告要旨集希望者は、必要な代金を下記口座に**9月23日(金)まで**に振り込んで下さい。

<振込口座>

郵便振替	加入者名：日本協同組合学会	口座番号：00140-5-557520
農林中央金庫	本店 (958) 日本協同組合学会	口座番号：NO. 5026910
三井住友銀行	飯田橋支店 日本協同組合学会	普通預金 / 口座番号 NO. 7033961

<宿泊について>

各自手配して下さい。近年、観光客の増加に伴って、市内ホテルが大変混雑しております。是非とも早めの手配をおすすめいたします。

<第1・2日目の昼食について>

10月7日～8日は大学生協食堂が営業しています。また、大学生協の購買店舗や、学外近くに飲食店も多数あります。

<実行委員会連絡先>

北海道大学大学院農学研究院（〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目）

実行委員会事務局 小林 国之・正木 卓

TEL:011-706-2474 or 011-706-3640

FAX:011-706-2462

メール kobakuni@cen.agr.hokudai.ac.jp

masaki@cen.agr.hokudai.ac.jp

<学会事務局からのお願い>

○当日は受付での混雑が予想されますので、事前申込と事前支払へのご協力をお願い致します。

○会場へは受付を済ませてからお入りください。（第2日目からご参加の場合も同様です）

○会期中は、受付でお渡しするネームプレートの着用をお願い致します。

※近年、受付を済ませないまま、必要な参加費を支払わずにシンポジウムや交流会等に参加する方が見られるようですので、上記のとおり注意喚起をさせて頂きました。

10月7日（金） 地域シンポジウム

日時： 10月7日（金） 13:30～16:30

会場： 北海道大学農学部大講堂（農学部本館4階）

テーマ： 北海道農業の形と農協の役割 ～JA改革の実践にむけて～

解題：

2015年農業センサスの数値をみると北海道においても担い手の減少は進んでいる。そうした中で、地域農業を支えてきた農協の役割にも変化が求められている。「小農」としての家族経営を支える農協としての役割から、経営として自立化した経営が求める機能を果たす農協としての転換である。第28回北海道農協大会において、農協の方針として、担い手の確保、所得の向上、農村づくりへの貢献が掲げられた。これまで「属するのが当たり前」であった農協組織は、今改めて、「なぜ農協が必要なのか」という問を自問する必要に迫られている。農協には、農業経営支援だけではなく、地域をささえるため自らが担い手となる取り組み（農協出資法人、直営TMRセンターなど）も求められている。

協同組合としての特質である「人的結合組織」「地域への貢献」という視点に特に注目をしながら、北海道の最新の動きについて現場からの報告を踏まえて、北海道の農業・農村のこれからの形と、そこでの農協の役割について考えてみたい

座長解題 「第28回北海道農協大会の提起とその後」

小林 国之（北海道大学大学院農学研究院）

第1報告 「出向く営農指導体制による新たな組織力形成の取り組み」

河田 大輔 (JA きたみらい総務企画部 部長)

第2報告 「農協出資型法人と地域のこれから」

太田 眞弘 (JA 新得町 代表理事組合長)

第3報告 「北海道の農業・農村を支える農協女性部の役割」

高橋 祥世 (北海道大学大学院農学院)

第4報告 「次世代を担う農協青年部のめざすもの」

北海道農協青年部協議会役員

パネルディスカッション 「これからの北海道農業の形と農協の役割」

パネラー 上記報告者

他 北海道農協中央会より

10月8日(土) 午前 個別論題報告・テーマセッション

日 時： 10月8日(土) 9:15~11:45

会 場： 北海道大学農学部 (本館3階S31、S32、2階S21、S22、1階S11、S12 教室)

○ 報告時間：報告20分、質疑10分

○ 第1報告：9:15~9:45 第2報告：9:45~10:15 第3報告：10:15~10:45

第4報告：10:45~11:15 第5報告：11:15~11:45

○ 個別論題報告等の要旨は、事前に学会HPにアップしますのでご確認ください。

(当日の大会要旨集には掲載しません)

○ 報告者が報告に使用するパワーポイントのデータについて、

→事前に送る場合は、メールにて「実行委員会連絡先」(3頁に掲載)にお送りください。

→直接会場に持参する場合は、報告当日の朝8時30分までにUSBメモリにてお持ちください。

会場	座長	報告順	報告タイトル	報告者	所属
第1会場 (農学部S31)	相良 孝雄 (一社)協同総合研究所	第1報告	農山漁村電気導入促進法と「電気の協同組合」の実際	三浦 一浩	(一財)地域生活研究所
		第2報告	「営農発電」の取組みと協同組合との関係性—奈良県での実践事例を交えて—	河原林孝由基	(株)農林中金総合研究所
	走井 洋一 (東京家政大学)	第3報告	「共に働くこと」を軸に、協同労働や協同組合の社会的認知を若者に広げるための一考察	相良 孝雄	(一社)協同総合研究所
		第4報告	農山村地域におけるコミュニティ・ビジネスと自治の基盤形成	原田 晃樹	立教大学コミュニティ福祉学部
		第5報告	農福連携による障害者の就労支援の取組みと農村地域への影響—北海道T町を事例に—	柏 絵織	北海道大学大学院農学院
第2会場 (農学部S32)	小林 康幸 (全国農業協同組合中央会)	第1報告	共済事業における組合員と連合会職員の関係性	岡田 太	日本大学
		第2報告	総合農協の准組合員の属性と特徴に関する実証的研究	小林 元	広島大学
	増田 佳昭			滋賀県立大学	
	小山 良太			福島大学	
	西井 賢悟			(一社)JC 総研	

会場	座長	報告順	報告タイトル	報告者	所属
第2会場 (農学部S 32)	林 薫平 (福島大学)	第3報告	日本における生協PB商品の発展と課題—事業連立化と組合員関与—	加賀美 太記	就実大学
		第4報告	おしゃべりパーティ報告書による生協職員の意識変化	青木 美紗	奈良女子大学
第3会場 (農学部S 22)	北川 太一 (福井県立 大学)	第1報告	フランスの農業協同組合における農業指導の現状・特徴・示唆	小池 恒男	(一社)農業開発 研修センター
		第2報告	韓国における広域農協連の展開と機能—晋州組合を事例として	黄 盛壹	北海道大学大学 院農学研究院
	松岡 公明 (農林漁業 団体職員共 済組合)	第3報告	The Possibility of Cooperation Among Farmers' Specialized Cooperatives in China: A case study of the Guoren Green Alliance, Beijing	Gao Huichen	北海道大学大学 院農学研究院
		第4報告	主体間のバリューチェーンの構築における農協の役割 -JA 平取の事例を中心に—	韓 尚佑	北海道大学大学 院農学研究院
第4会場 (農学部S 11)	伊丹謙太郎 (千葉大学)	第1報告	原子力災害における被災漁業協同組合の実態	阿高 麦穂	東京海洋大学大 学院
		第2報告	協同組織金融における所有・コントロール権に関する研究	長谷川 勉	日本大学商学部
	成田 拓未 (弘前大学)	第3報告	経済連存続の経済的基礎	藤田 久雄	北海道大学大学 院農学研究院
		第4報告	終戦期日本における統一組合法構想とその蹉跌	坂下 明彦	北海道大学大学 院農学研究院
第5会場 (農学部S 12)	田中 夏子	第1報告	GSEF2016と社会的経済	丸山 茂樹	参加型システム 研究所
		第2報告	オランダにおけるワーク・ライフ・バランスの現状分析	久保 隆光	明治大学
	北島 健一 (立教大学)	第3報告	イギリスにおける生活協同組合の総合事業と組合員制	阿高 あや	(一社)JC 総研
				前田 健喜	(一社)JC 総研
第4報告	イタリア協同組合における職場の維持・創出とそれを支える社会的・制度的基盤～経営が困難化した企業を、労働者協同組合方式で再生する取り組み(WBO)を事例として～	中野 理	日本労働者協同 組合連合会		
				田中 夏子	

会場	座長	報告順	報告タイトル	報告者	所属
第6会場 (農学部S 21)	志波早苗 (パルシステム 生活協同組 合連合会)	第1報告	生協の組合員活動から「働く場づく り」「政治活動」へ	藤木 千草	ワーカーズ・コレ クティブ及び非 営利・協同支援 センター
		第2報告	非正規雇用における金融問題	谷川 孝美	日本大学 非常勤講師
		第3報告	生活困窮家庭の子ども支援と協同組 合の課題	橋本 吉広	NPO 法人地域 と協同の研究セ ンター
	テーマセッション 女性・子どもの貧困に協同組合は何ができるのか;日本協同組合学会女性部会からの提言				
	大高研道 (聖学院大 学)	第1報告	相談から感じる「社会的自立」 ～子どもが大人になり切れない～	志波 早苗	生活サポート 生活協同組合 ・東京
		第2報告	変動する”子育て”の背景と日本の 協同組合ができること	近本 聡子	公益財団法人 生協総合研究所

10月8日(土)午後 大会シンポジウム

日時： 10月8日(土) 12:45～16:15

会場： 北海道大学農学部大講堂(本館4階)

テーマ： これでいいのか協同組合 ～その主体性を問う～

座長解題： 石田 正昭(龍谷大学)

1995年協同組合原則の第4原則〔自治と自立〕では、「協同組合は、組合員が管理する自治的な自助組織である。協同組合は、政府を含む他の組織と取り決めを行なう場合、または外部から資本を調達する場合には、組合員による民主的管理を保証し、協同組合の自治を保持する条件のもとで行なう。」とされている。

この原則の背景の説明では、「政府は課税、経済政策、社会政策をつうじて、協同組合の取扱いにおいて協力的になることもあれば、障害となることもある。そのため、すべての協同組合は、政府と開かれた明瞭な関係を築くために細心の注意を払わなければならない。」と述べ、また、自治の原則は、政府を含む他の組織との取り決めを行なうときには、「協同組合が最終的にみずからの運命を管理する自由を確保することが重要だと強調している。」とも述べている。

今般の農協法改正に当たっては、この第4原則が政府とのあいだで守られたのかどうか、また、この原則を守るように努力したのかどうか、あるいは努力しているのかどうか、が問われている。現時点では、政府が主張する方向性がそのとおりに実現するかどうか最終的な決着はついていないが、「みずからの運命を管理する自由を確保した」とはいえないような状況が続いている。大会シンポジウムでは、この第4原則の言明をふまえて、協同組合性を担保するための諸論点を法律見地と、協同組合の理論的ならびに実践的な見地から検討したい。

政府主導による今般の制度改正の要求は、直接的には農業協同組合に向けられたものであるが、その根底に流れている大企業優先の経済思想から考えれば、決して農業協同組合に留まるものではない。協同組合一般に対する攻撃ないしは挑戦と受け止めなければならないだろう。こうした事態に対処して、協同組合セクターに課せら

れた今日的課題とは何かを議論していきたいと思う。

座長解題 石田 正昭 (龍谷大学)

第1報告 「農協法改正が提起する課題とわが国の協同組合制度
—主体であるべき組合員側からの視点で—
明田 作 (レクスコ・明田ラボ)

第2報告 「北海道における協同組合のレーゾンデートル」
正木 卓・高 慧琛 (北海道大学)

第3報告／コメント 交渉中

会場討論＋座長総括

(協同組合のあるべき姿・協同組合性の追求と、現実的な事業実践上の課題対応はどのように結びつきうるか、また、農協だけでなく生協などの他の協同組合はこの問題をどう考えるか等、今年の春季大会シンポジウム、ならびに今回大会の地域シンポジウムの成果も踏まえて議論)

会員総会

上記大会シンポジウム終了後、会員総会を開催します。会員の皆さまのご出席をお願いします。

日時： 10月8日(土) 16:30～17:45

会場： 北海道大学農学部大講堂(本館4階)

主な議題：①2015年度事業報告および決算報告

②2016年度事業計画および予算計画

③その他

交流会

日時： 10月8日(土) 18:15～19:50

会場： 北海道大学農学部大講堂(農学部本館4階)

参加費： 一般会員4,000円、学生会員3,000円です。

準備の都合上、参加申込ハガキで事前に申し込んで下さい。なお、交流会参加費振込後は返金いたしません。

日本協同組合学会 第18期第3回(2016年度第1回)理事会

大会1日目の10月7日(金)に理事会を開催します。理事の皆さまのご出席をお願いします。詳細は、後日ML等でご案内します。

日時： 10月7日(金) 17:00～18:30

会場： 北海道大学農学部食資源研究棟F319

主な議題：①2015年度事業報告および決算報告

②2016年度事業計画および予算計画

③その他

10月9日(日) エクスカーション

[企画趣旨]

1日目の地域シンポの内容とも関連させながら、北海道を代表する農業地帯であり、農協合併とは異なる「ネットワーク十勝」という連携の中で各地域が独自の農業振興を行っている十勝を舞台に、

農業・農村振興における農協の役割について視察します。

- ・ JA 札幌駅北口バス乗車場 8:00 発
 ※札幌北 I C から道央自動車道～道東自動車道経由
- ・ JA 新得町 シントクユアミルク（新得町字上佐幌東 1 線） 10:30-11:30（説明・見学）
- ・ ファームレストラン「大草原の小さな家」にて昼食
 （鹿追町笹川北 7 線 11 番地 3） 12:15-13:00（昼食）
 ※北海道におけるグリーンツーリズムの先進事例
- ・ JA 十勝農協連・中央会帯広支所にて十勝ネットワークの取り組み
 （帯広市西 3 条南 7 丁目 14 番地） 14:00-15:30
 ※クミカンの見える化による営農指導（予定）
 ※農協間連携による産地形成の実態（予定）
- ・ 十勝帯広空港経由（途中下車） 16:00
 ・ 帯広空港発 ADO 19 時 10 分、JAL 20 時 15 分
- ・ 新千歳空港経由（途中下車） 18:30（道路の状況により遅れる可能性あり）
- ・ JR 札幌駅北口バス乗降口着 19:30

参加費 5,500 円（昼食代 1,500 円含む）

◇ 投稿論文の締切り日の変更について（編集委員会）

- ・ 去る 2016 年 7 月 1 日の常任理事会において、以下の通り「投稿規程」を改正することが承認され、
 従来の締切り日より 1 か月早めることとしました。この規定は、2016 年 11 月 15 日締切り（第 36 巻第 2 号掲載希望分）より適用されますので、くれぐれもご注意願います。

『協同組合研究』投稿規程

- 旧) 13. (2) 「投稿の受付締切りは、6 月 15 日（各巻第 1 号）および 12 月 15 日（各巻第 2 号）とする」
- 新) 13. (2) 「投稿の受付締切りは、5 月 15 日（各巻第 1 号）および 11 月 15 日（各巻第 2 号）とする」

（2016 年 7 月 1 日常任理事会において改正）

[改正理由] 投稿締切り日を早めることにより、受付・査読・編集対応に余裕を持たせてスムーズな投稿論文の掲載を実現するため。